



財団法人栃木県国際交流協会
Tochigi International Association

TIAニュース

やあ!

1996
SEPTEMBER 9
No.45



勝道上人誕生地

市町村文化財紹介 真岡市

日光開山勝道上人誕生地

奈良時代に日光を開山した勝道上人(735年～817年)誕生の地は、真岡市南高岡にある仏生寺境内と伝えられている。幼少のころから神童として知られており、仏道を信じ、下野薬師寺へ行き出家し、勝道と号した。33歳のとき日光開山を志し、難行苦行の末、男体山の山頂を極めた。

県指定の天然記念物である仏生寺の2本のけやきは、樹高30m、樹齢700年で、仏生寺の山門の両側に並び立ち、境内の厳かな雰囲気をかもしだしている。

シリーズ

マラウイ

青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介

トピックス

- ● ● タンザニア 料理講習会開催
- 浙江省友好交流員を派遣

Nikko Kaizan Shodoshonin Birth Place

Shodoshonin(735-817 A.D.), who was the first to sanctify the mountains of Nikko as objects of Buddhist worship during the Nara period, was born on the grounds of Busshoji temple in Minamitakaoka, Moka city. He became known as a 'child prodigy' because at an early age, he worshipped Buddhism and became a monk at Shimotsuke-Yakushiji thereby taking the name Shodo. At 33 years of age, Shodo enshrined a god at a sacred spot on top of Mt. Nantai, thus, founding Nikko as a public place of worship.

Two zelkova trees on the grounds of Busshoji temple were declared as a natural monument by the Tochigi prefecture on November 17, 1959. The trees are 30 meters in height and about 700 years old. They stand on both side of the temple gate, creating a majestic atmosphere.

- ◆ようこそとちぎへ
栃木県国際交流員 谷本ゆかりさん
- ◆こんな店あんな店
韓国料理スンチャン・ハレルヤ食品
- ◆国際交流団体紹介
高根沢国際交友会
- ◆TIA Information Corner
とちぎインターナショナルフェスティバル'96

JETコーナー

外国語指導助手

サイモン・クックさん

(イギリス出身・23歳)



ハイ！僕の名前はサイモン。23歳、ロンドンから来ました。僕は中学校英語指導助手2年目で、県の東にある人口2万人の小さな町、烏山に住んでいます。

成田に着いてからこのかた、カルチャーショックという言葉を何度も聞くいた事をJETの皆が覚えていると思います。国の首都であり心もある所から小さな日本の「田舎」へ移ったことは、多分今までいちばん大きなショックでした（だけど、色々な意味で、僕一人がショックを受けた訳ではないよ！）。

正直言うと、日本の地方の生活に対する最初の感想は決して良くはなかったです。これは、大きな町以外に住むのが初めてだったことと、ひとりぼっちでこんな状況の中に取り残されたからです。「俺が一体何したって言うんだ」と感じました。だけど、長く住めば住む程、今までの人生では経験する事の無かった田舎の生活を楽しめる様になったので、前言撤回しないといけませんね。

最初に驚いたことは、たまに暴走族がかき乱すだけの夜の静けさ。都会の喧騒のかわりにコオロギや蛙の声を聴きながら眠りにつくのが、一年経った今では全く当たり

まえです。

僕が自分の町で大好きなものはその風景です。かつての都市居住者のように、自分も今まで山を道路建設の妨げとしか見ませんでした。ですが、四季折々に美しく変化する山の姿に、今では離れがたいものを感じます。でも、もし僕の生徒達のように自分が毎日自転車で山を昇り降りするのなら、同じようには感じないでしょうね！

自分が日本で好きなものを書き並べていくと非常に長くなるし、もしそれ程好きでなければあと一年ここに居ないでしょう。日本に来て、自分は多くの事を学びました。自分が今まで当然だと思っていたことに感謝ができるようになりました。でも、日本に来て一番良かったことは、それが古い神社に出くわすことであろうと、事務所の前の寿司屋にある鼻をつままずに食べられる寿司であろうと、いつも何か新しい発見があるということです。日本は驚くことばかりで、それを理解するのは大きな挑戦です。

今でもまだ、田舎生活をエンジョイしたのと同じ程、都会が恋しくて仕方無くなる時があります。そんな時は、東京がここから2~3時間の所にあり、いつでも懐かしい雰囲気の中に帰れる事を思い出します。街のチラチラする明かりが今にも見えそうな気がします。次の新幹線がいつ出るのか気になるなあ…？！

Hi! My name is Simon. I am 23 years old and I come from London. I am a second year junior high school ALT and I live in Karasuyama, a small town of 20,000 people located in the very east of Tochigi ken.

I'm sure every JET can remember stepping off the plane in Narita and hearing the phrase 'culture shock' over and over again. Well, moving from the capital city and heart of my own country to a small, 'inaka' Japanese town was perhaps the biggest shock I received.

(Although not the only one by any means!)

To be honest, my first impression of rural Japanese life were not positive. This was the first time in my life that I had not lived in a big city and in that terrible moment when your supervisor first leaves you alone, I thought 'what have I done'. But now it seems I must eat my words, as the longer I stay, the more I enjoy the things rural life has to offer that I have never had the chance to experience before.

The first thing that struck me was the silence, only occasionally broken by the local motorcycle gang. Now, a year later, it seems perfectly natural to drift off to sleep not to the sounds of a city, but to the sounds of crickets and frogs in the nearby woods and fields.

Something else I love about my town is the scenery. As a former city dweller I used to see mountains as nothing more than a hindrance to road building and progress! But after having watched the mountains change through four seasons I know I will miss the sight of them when I leave. However, I don't think I would feel the same if I had to cycle up and down them like my students do every day!

The list of things that I like about Japan is very long, otherwise I wouldn't be here for another year. Coming to Japan has taught me many things. It has made me appreciate what I have always taken for granted. But perhaps the best things about Japan is that there is always something new to discover, whether it be stumbling across an old shrine in the middle of nowhere, or a new kind of sushi I can eat without choking in front of my office. Japan and her people are full of surprises, and trying to figure them out is a big challenge.

As much as I enjoyed living in the country I still get the occasional crowing for the big city. When that happens I know that Tokyo is only a couple of hours away, and always willing to welcome back a long lost son. I can almost see the lights twinkling now. I wonder when the next Shinkansen leaves...?!

在日タンザニア全権大使夫人による タンザニア料理講習会開催

テオピスター・チアロ在日タンザニア全権大使夫人を招いてタンザニア料理と一緒に作る料理講習会が、8月9日（金）栃木市



料理を説明するタンザニア大使夫人



好評だった三角餃子「サモサ」

約3時間。ようやく出来上がった料理をみんなで試食し、感想を述べあった。特に「サモサ」は人気があった。

食後は、タンザニアのビデオを見たり、タンザニアを旅行した人の旅行談を聞いたりして、暑い夏の日の一日を、食を通じた交流で過ごした。

ようこそとちぎへ

welcome to Tochigi

栃木県国際交流課国際交流員

谷本 ゆかりさん

(アメリカ出身・23歳)



JETプログラムで
アメリカから7月末に
来県した谷本ゆかりさん
は、栃木県の国際交
流員(CIR)として
国際交流課に勤務して
いる。おしとやかな彼女に直撃インタビュー。

＊＊＊

— 初めまして。ようこそ栃木県にいらっしゃいました。まず最初に、出身地についてお聞かせください。

ゆかり 私の住んでいる町は、アーバインといいます。ロスとサンディエゴの中間位で、海から近いです。大学があるので学生が多く住んでいます。そして、アメリカで一番安全な町と言われています。

— ゆかりさんは日系2世だそうですが、ご両親はいつ移住されたのですか。

ゆかり 25年前です。輸出入業をやってい

ました関係で、アメリカに住むようになりました。現在は小さな会社を経営しています。私には兄が一人いますが、兄は日本で生まれました。

— 今までに日本に来たことはありますか。

ゆかり 13歳のとき1か月ほど大阪の親戚のところに遊びにきて、お寺などに連れて行ってもらいました。アメリカと違って日本には長い歴史があるので、大変興味を持ちました。日本についてもっと勉強したいと思ったのもこの時です。

— 日本語は勉強していたのですか。

ゆかり 5歳から15歳まで、日本語学校に通っていました。その後大学に入ってから2年間学びました。

＊＊＊

— 大学ではどんな勉強をしましたか。

ゆかり 大学はカリフォルニア州立大学バークレー校です。私の専攻はINTERNATIONAL RELATIONS(国際関係)と日本語でした。世界的に民族紛争が多いので、民族同士がどのように考えているのかを知りたくて選びました。実はこの国際関係という学科は私たち学生が大学のアドバイザーと相談しながら創ったんですよ。

— 学生たちの希望で学科が生まれるとは驚きますね。ところで大学では何か活動をしていましたか。

ゆかり 「ジャパン・クラブ」という日本が好きな人が集まるクラブに入っていました。日本から来た人が文化を無くさないよ

うにというのが目的ですが、実際はカラオケに行ったり、日本食を食べたりするのが多いです(笑)。

— ご両親は日本人ですので、日本の文化にも日常的に触れていると思いますが、日本の文化と比較したアメリカの文化の良い点についてお話しください。

ゆかり そうですね…自分の好きなことができるという点かな。それに様々な人種が集まって仲良くやっていこうとすることです。大学に在学中も、経験豊富ないろいろな人がいて勉強になりました。私個人としては、アメリカと日本の両方の文化から優れた考え方を取り入れて、それをミックスさせています。

＊＊＊

— ところで、JETプログラムに参加した理由は何ですか。

ゆかり 小さいころ日本に来てから、日本をもっと見てみたいと思っていました。また日本語を勉強して、人間関係について詳しく知りたいと思ったからです。

— これから国際交流員としてどんなことをしていきたいと考えていますか。

ゆかり 県民の皆さんにアメリカのことをたくさん話したいです。特に最近、アメリカは危ないと言われていますが、いろいろな場所があるということを知ってほしいです。

— ニュース以外のアメリカの姿がどんどん紹介されるといいですね。今日はどうもありがとうございました。

平成8年度浙江省友好交流員出発

今年度の浙江省友好交流員は足利市の菊地聰子さんと宇都宮市の前田京子さんに決定した。菊地さんは以前に1年間、北京に留学したことがあるが、今回は更に中国語に磨きをかけ、帰国後、地域の中国人のためのボランティアを行いたいと思っている。一方旅行会社に勤務中2度添乗で中国に行ったことがあるという前田さんは、会話の勉強や書道にも挑戦して、将来は自分の仕事や社会活動に役立てたいと話した。

2人は9月から来年の2月まで浙江大学对外言語文化交流センターで研修する。



▲中国浙江省で友好交流員として研修する菊地さん(左)と前田さん(右)

修に参加しヴォークリューズ県でホームステイした人達による「受け入れ実行委員会」(会長:城生ナツイ氏)が組織され、このホームステイ・プログラムを運営することになった。仮ホストファミリーのホームステイ先は、基本的に昨年受け入れた研修団員宅。久しぶりの再会にお互い喜びの声を上げ、肩を抱き合った。

日仏両ホストファミリーと実行委員会のメンバーは、日光や県内各地を案内し、地元の素晴らしさを紹介した。また、実行委員会が主催した送別会では、ホームステイの感想を話し合ったり、日光和楽踊りを披露して盛り上がった。



▲宇都宮市中央公園の日本庭園にて

トピックス TOPICS

フランス・ヴォークリューズ県から
ホストファミリーが来県

栃木県と友好交流を行っている南仏プロヴァンス地方のヴォークリューズ県から、「プロヴァンス・ジャポン協会」の会員である8名(4夫婦)が8月19日~28日の10日間来県した。同協会は、7年前から、栃木県がヴォークリューズ県等に派遣している海外研修団員のホームステイを引き受けている。栃木県は、協力へのお礼と日本文化を実際に知ってもらうために、3年前からこのホストファミリーを受け入れている。

一行は、知事表敬訪問、県立博物館、東京視察を終えたあと、5泊6日のホームステイに入った。今年度から、過去に海外研

シリーズ NO.2

アフリカ大陸南部に位置する「マラウイ共和国」は、面積が日本の本州の半分ほどの小さな国。北東部にはアフリカ第3の湖であるマラウイ湖を有する。1988年、隣国モザンビークの内戦で100万人以上の難民が流入したが、94年の和平で帰還が進んだ。

経済の基盤は農業（タバコ、紅茶、砂糖、落花生等）で、労働人口の80%を占める。日本への輸出はタバコなどである。

仕事は家畜の治療

マラウイの南部の都市ブランタイアから約40km離れたチョロという町に私は赴任しました。ブランタイアの農業省農業開発局チョロ事務所長というのが一応肩書です。ここで獣医師として、主に家畜の治療と獣医助手への技術指導を行いました。

マラウイ国内には獣医師の養成機関がないので免許が取れません。もし免許を取るなら隣国のケニアやジンバブエに行かなければなりません。そういう状況ですので、現在マラウイには政府・民間合わせて約10名しか獣医師がいません。

治療する動物は家畜の牛がほとんどです。他は飼い犬・猫です。マラウイはかつてイギリスの植民地だったこともあり、今でもイギリス人や南アフリカ人の白人が所有するお茶、コーヒー、タバコ、マカデミアナッツ、トウモロコシなどの大農園があります。彼らはよく犬や猫を飼っているので、病気になると診てあげます。



◀ 河原さん
が滞在した
チョロの人達。
女性は
チテンジ
(腰巻き) を着
ている

青年海外協力隊帰国隊員による派遣国紹介 マラウイ MALAWI

案内人

河原團果さん（33歳） 栃木県宇都宮家畜保健衛生所主任



青年海外協力隊の獣医師として、1994年4月から1996年3月まで、アフリカ・マラウイ第2の都市ブランタイアの農業省農業開発局チョロ事務所に勤務する。現職参加。6月に来県したマラウイからの海外技術研修員カンジャラさん（県西那須野家畜保健衛生所）は河原さんのカウンターパート。



▲ 家畜の牛を治療する獣医助手

診療所には普通の動物病院並みの器具は揃っていますが、薬が十分にありません。国内では製造していないので、すべて輸入に頼っていますが、その薬の購入予算がいつのまにか政府の公務員の給料などに変更されてしまうのです。信じられないのですが、国の予算がないのでこのようなことが起こるのです。だから日本の友達から薬を送ってもらったりしました。人間の薬もあまりなくて薬剤師が困っているというのに、ましてや動物の薬なんか…という感じです。また、私が働いていた事務所の年間経費も約12万円しかないので、ガソリンが買えなくて遠くまで診療に行けなかったことがあります。マラウイはいつも外国の援助に頼ろうとしているところがありますね。だから予算がなくても何とかなると考えてしまうようです。

貯金は必要がない？

専門学校を出て10年ぐらい働いている人

の月給は約5千円。これではなかなか食べていけないので共稼ぎが多いです。また副収入を目的として、パンなどの物売りをする人もいます。貯蓄の考えがなく、もらったお金は全部何かを買って使ってしまうんです。

主食はトウモロコシの粉

マラウイの主食は「シマ」と呼ばれるトウモロコシの粉をこねたものです。それに豆、肉、キヤベツやカボチャの葉、ウシバ（マラウイ湖でとれる小魚）などをトマトソースで煮ておかずにして、シマと一緒に食べます。これが一般的なマラウイ料理です。アフリカで3番目に大きいマラウイ湖では沢山の魚がとれますので、魚料理も豊富です。なまずやチャンボ（テラピア）を焼いたり、煮たり、燻製にしたり、フライにします。とてもおいしいですよ。

私がよく食べていたのは「シマ」をお粥のようにしたものや、お米です。マラウイのお米はタイ米のように細長いのですが、味はとても良く、近隣ではマラウイのお米が一番おいしいと言われています。

次に衣類についてですが、男性は普通の洋服を着ていて特に特徴はありません。一方女性はお洒落着として「チテンジ」という派手な柄の腰巻きをすることがあります。わたしたち協力隊員は「チテンジ」をズボ



美しいマラウイ湖の夕日



ンに直して着ていました。

住居は、田舎では藁の屋根とレンガを積んで造る土塀の家が典型的で、電気が通っているところは少なく、水道はほとんど通っていません。ですから、水を汲んできても薪で火を炊いて料理し、夜はランプを灯して生活します。

太鼓のリズムで踊る

マラウイ人はとても陽気で、音楽が聞こえると子供から大人まで踊ります。その中心的な楽器は太鼓です。筒のような太鼓を股に挟んで叩きます。

伝統舞踊に「グレワンクール」というのがあり、動物や人のお面を被った男性が、太鼓のリズムと子供や女性の歌声に合わせて踊ります。猿のお面をかぶれば猿の物真似を、キリンのお面をかぶればキリンの物真似を大袈裟にやります。また、仮面をつけ、槍と楯を手に野獣の毛皮でできた帽子・パンツを身にまとった武装姿で、戦いの模様を踊りで披露する伝統舞踊もあります。音楽はやはり太鼓のリズムです。こうした舞踊は日常的に、例えば結婚式や酒場や集会場などでも見ることができます。太鼓のリズムさえあれば踊りが始まることができます。

もちろんマラウイにも若者に人気の音楽があります。「クワサクワサ」というレゲエ系ディスコミュージックがそれで、とても



▲民族舞踊「グレワンクール」



太鼓があれほどどこでも音楽

流行っています。

5つの国立公園

観光面としては、4つの林野・高原部の国立公園とマラウイ湖畔の国立公園の計5つの国立公園があります。林野部の各公園では、ケニアやタンザニアなどの近隣諸国と比べると少ないですが、ゾウ、ワニ、カバなど各種の野生動物を見るできます。また、マラウイ湖国立公園は世界遺産のひとつに指定されていて、マラウイ湖の美しい自然を楽しめます。水は澄んでいて綺麗で、現地の人達は泳いでいますが、寄生虫がいるので、日本人は泳がないほうが多いでしょう。

湖に浮かぶ小さな島「リコマ島」には、中央アフリカでは有数の規模を誇るセント・ピーターズ協会があり、国内外から多くの観光客が訪れてます。

その他の観光地として、標高3,000mとマラウイで一番高いムラン

ジェ山があります。多くの登山コースがあり、それぞれに変化に富んだ登山が味わえます。私も友人と一緒に頂上まで登りました。とても気持ちが良かったですよ。

残念なことに、マラウイには日本からの観光客がほとんどいません。たまに出会うのはアフリカを渡り歩いているバッグパッカーか、タバコの葉を買い付けにくる日本たばこの方くらい。だから日本人を見たらほとんどJICA関係者と思っていいでしょう。そういうえば一度だけ自転車でアフリカを回っている日本人に会って驚いたことがあります。



▲標高3,000mのムランジェ山頂上にて

データ マラウイ共和国



[国旗の意味]

黒はアフリカの人々とその自由と独立を、赤はそのために流された血、緑は常緑の自然を表す。黒の部分の日の出は希望と自由のあけぼのを意味する。

- | | | |
|--------|-----------|----------------------------|
| ① 面 | 積 | 11万8484km ² |
| ② 人 | 口 | 946万人(93年) |
| ③ 首都 | | リロングウェ |
| ④ 主要言語 | | 英語、チエワ語 |
| ⑤ 宗教 | | 伝統宗教、キリスト教 |
| ⑥ 政治 | | 複数政党制 |
| ⑦ 元首 | 大統領(任期5年) | |
| ⑧ 通貨 | | クワチャ |
| ⑨ 時差 | | 日本より7時間遅れ |
| ⑩ その他 | | 協力隊員の派遣人数978人
栃木県からは21人 |

国際交流団体紹介

高根沢国際交友会

高根沢国際交友会の夏は忙しい。マレーシアや日本を舞台に、当会（T I F A）と Young Malaysian Movement (YMM) の隔年交流は、相互の理解を深め、会員はもちろん家族や住民を巻き込んで、年々この事業に関わる人々の生き方を増幅している。

家庭の楽しい食事、豊の生活、伝統文化に触れる祭りの参加、学校訪問の教育交流など様々な交流の積み重ねが信頼を生み、今夏もホットなドラマを演出している。ホームステイでは言葉の違いを乗り越えて、日本語と英語を交えて親の世代までが一緒に交流を図るようになってきていることは喜ばしいことだ。今日も、バスの中では英語のカラオケが大きく響いている。

この事業を支えているのは両者の誠意である。両国間には、宗教、生活様式など様々な形で違いがある。その差異性を埋める唯一の方法はまさに誠意であり、相互の信頼関係を築いた源泉である。人ととのつながりは、景色や生活空間の美観より美しい。このように前述の働きは、海外の人とのつながりとともに当会の活動の生命線になっている。

高根沢国際交友会は、世界の人々と幅広い交流を通して見聞を広め、相互の友好親善を図りながら豊かな郷土社会づくりに貢献することを目的に、平成2年2月8日に設立された（会員は20歳～50歳代の青年や主婦50名）。以来、今まで手づくりの国際交流をてがけ、「国際交流のつどい」をはじめ、「英会話教室」の開催、海外の中学生の絵画等の交換、「世界の音楽交流」、更に、小学生のスポーツ・文化交流の橋渡し役を果たしている。

民間の国際交流団体である当会は、財政という課題を抱えながらも、今後も会員の主体性を活かし、地道に活動を続けていくだろう。（文：小林栄治 028-676-0099）



▲マレーシアとの交流が続いている

こんな店 あんな店

韓国料理 スンチャン キムチ専門店 ハレルヤ食品

韓国料理といえば、その代表格が焼肉だし、韓国の食品と言えばキムチだが、今回紹介する韓国料理の店「スンチャン」とその隣に併設しているキムチの「ハレルヤ食品」（根本克己社長）は、この域を越え、本場の韓国の味を提供している。

料理内容を総括しているのは根本社長の奥様である崔二順さんで、自ら調理に携わっている。本当に味へのこだわりを追求しているのだ。

スンチャンの料理は、韓国風の鍋料理（チゲ）が好評のようで、キムチチゲや牛もつチゲが2,000円で食べられる。骨つきカルビ(1,300円)は、鉢で切って食べる本格的なもの。また、韓国で有名なブルコギ(2,000円)、韓国風お好み焼チヂミ(1,300円)、そして参鶏湯（サンゲタン）、石焼きビビンバ、冷めんもある。肉を食べ、野



▲すんちゃん駅東店



菜を食べて、最後に冷麺を食べて締めくくるというのが一般的な韓国式食べ方だそうだ。また、酒類では、高麗人参酒に人気がある。

一方、スンチャンの隣のハレルヤ食品では、崔さんが自ら味付けした様々な種類のキムチを販売している。人気の菲キムチ、オイキムチ（胡瓜のキムチ）、またチャンジャ（鱈の塩辛）は、500円からとお手頃な価格。キムチの材料も揃っているので、韓国キムチを自分で作ってみようとお考えの方におすすめだ。また、味付けしてあるカルビ等も販売している。

スンチャン、ハレルヤ食品は、宇都宮市内2カ所（駅東店・今宮店）に出店しているので、お近くの方は一度、訪ねられてはいかがだろう。

- ◆スンチャン駅東店 ▷営業時間=17:00～3:00 年中無休 ▷住所=宇都宮市東宿郷1-7-2 ▷電話=028-636-7791
- ◆ハレルヤ食品駅東店 ▷営業時間=10:00～19:00 毎週日曜定休 ▷住所=同上 ▷電話=028-633-4434
- ◇スンチャン今宮店 ▷営業時間=11:00～24:00 年中無休 ▷住所=宇都宮市今宮1-23-10 ▷電話=028-658-2941
- ◇ハレルヤ食品今宮店 ▷営業時間=10:00～19:00 毎週日曜定休 ▷住所=同上 ▷電話=028-645-9441

知ってて得する なんでもQ&A

[海外留学について パートⅠ]

- Q. 高校を卒業した後、外国の大学に留学したいと考えています。どのような準備をしたらよいか教えてください。
A. 当たり前の事ですが、日本で受験の準備をするのと同じく、学校探しから始めま

す。どこの国に行きたいのか、何を勉強したいのか等目的をハッキリさせることが肝心です。学校捜しは、市販の留学ガイドや現地で発行しているカレッジガイド、又は業者や留学機関を利用する等の方法があります。行きたい学校が決まったら、更に詳細を知るためにその学校から学校案内と入学願書を取り寄せます。学校を決める際は一校だけに絞らず、いくつかの学校を候補にあげ、それぞれの学校から資料を取り寄せてみるのも良いでしょう。次回は資料請求の仕方等についてお話しします。

情報発信 地域の国際交流案内

★日本語教育能力検定試験実施

外国人に日本語を教える日本語教員となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者等を対象として、その知識及び能力が日本語教育の専門家として必要とされる水準に達しているかどうかを審査する「日本語教育能力検定試験」(文部大臣認定)が次のとおり実施される。▷受験資格=平成8年4月1日における年齢が満20歳以上であること ▷試験期日=平成9年1月26日(日) ▷試験地=札幌、東京、大阪、神戸、福岡 ▷受験案内(出願書類付き)の配布=平成8年9月25日から全国主要書店において一部400円にて販売 ▷受験料=7,500円(その他受験票などの送料が必要) ▷受付期間=平成8年10月14日~11月1日 ▷送付先・問い合わせ=〒153 東京都目黒区駒場4-5-29(財日本国際教育協会事業部・日本語教育能力検定試験係) 03-5454-5578 (24時間テレホンサービス) 03-5454-5215

★私費外国人留学生統一試験実施

私費留学生として日本の大学・学部又は短大で勉強するために平成9年度に大学等に入学を希望する者に対し、入学能力判定に適切な「私費外国人留学生統一試験」が次のとおり実施される。▷対象=日本の大学等の入学資格を有するもの(当該国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずるものとして文部大臣が指定した者及び当該国で中等教育課程を修了して大学受験資格を有すると認められた18歳以上の者) ▷試験日=平成8年12月1日(日) ▷試験地=東京、京都、福岡、

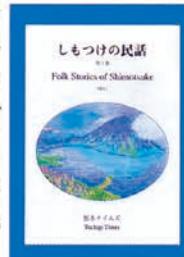
クアラルンプール、バンコク ▷受験料=4,120円 ▷受付期限=所定の願書を平成8年9月18日までに送付 ▷送付先・問い合わせ=〒153 東京都目黒区駒場4-5-29(財日本国際教育協会事業部日本語・統一試験課) 03-5454-5578 (24時間テレホンサービス) 03-5454-5215

★中学生エッセイコンテスト'96

▷募集テーマ=開発途上国や国際協力、国際理解について考えること。題は自由。▷応募資格=平成8年7月現在中学生であること ▷募集期間=平成8年10月31日まで ▷応募規定=本文:400字詰め原稿用紙3枚以内(A4サイズ)、別紙:400字詰め原稿用紙1枚に、①住所、②氏名(ふりがな)、③電話番号、④年齢、⑤性別、⑥学校名、⑦学年、⑧どのようにしてこのコンテストを知ったか、⑨海外渡航経験の有無を明記する。作品は未発表のもの。▷賞=特選4名(副賞に約1週間のマレーシア研修旅行)他各賞 ▷応募先=〒336 埼玉県浦和市北浦和4-5-5 北浦和大栄ビル7階 JICA関東支部 ▷問い合わせ=国際協力事業団総務部広報課 03-5352-5029

★英文翻訳「しもつけの民話第一集」発行

英文情報紙を発行している「栃木タイムズ」は、創刊8周年を記念して「しもつけの民話第一集」を出版した。栃木県内各地に伝わる10の民話を英文に翻訳し、日本語の要約も付けている。内容は三代将軍家光を殺そうとして企み失敗した宇都宮城釣天井の話や、源平の戦いの後栃木県の山奥に逃げてきた平家落人の話など。定価2,000円。詳細は 028-622-1066(鈴木)まで。



TIAライブラリー新着案内

▷知る辞典シリーズ(ラテンアメリカ、アメリカ、アフリカ、東南アジア、朝鮮)／平凡社 ▷イスラム辞典／平凡社 ▷ポケット看護辞典(和英対照)／廣川書店 ▷海外ボランティア入門／吹浦忠正著 ▷海外安全ハンドブック(北米・中南米編、ヨーロッパ・アフリカ編、アジア・オセニア・中近東編)／トラベルジャーナル ▷女性のための海外でお金と命を守る法／樋口容視子著 ▷電話英会話手帳(テープ付)／語研 ▷「話」のタネ84の英会話(テープ付)／語研 ▷英和対照・税金ガイド7年度版／五味雄治著 ▷日本のくらし12カ月／国際日本語研究所編 ▷会話「決まり文句」600シリーズ(中国語、韓国語、フィリピン語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、香港廣東語)／語研 ▷地球紛争解決のシナリオ／スリーエーネットワーク

TIA日誌

1996年8月1日~1996年8月31日

- 8/2 日仏青少年短期研修事業第1回実施委員会 (協会研修室)
8/3 県費留学生・技術研修員宮祭り参加
8/8 JICA派遣専門家連絡会設立発起人会 (協会研修室)
8/9 ~10 タンザニア食文化体験交流会(栃木市9日、小山市10日)
8/18 国連英検第2次試験(コンセーレ)
8/19~28 ヴォークリューズ県ホストファミリー受け入れ

宇都宮→成田空港

(直通高速バス マロニエ号)

空港ターミナル出発ロビーへ2時間50分!

●運賃・片道
大人 4,000円
小人2,000円
●15名様以上団体割引
●お問合せ・ご予約は
マロニエ予約センター
☎(028)638-1730

成田空港ゆき		宇都宮ゆき	
宇都宮発	成田空港着	成田空港発	宇都宮着
5:10	8:00	8:30	11:20
6:10	9:00	14:40	17:30
8:30	11:20	15:40	18:30
10:10	13:00	17:00	19:50
12:00	14:50	18:10	21:00
14:00	16:50	19:40	22:30

または関東バス各営業所へ
関東バス

必要な時に必要なだけ
オン・デマンド印刷から、ホームページ制作まで!

インターネットのホームページの制作は当社へ!
株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷

〒321宇都宮市平出町4287-7
TEL 028-662-2511(代) FAX 028-662-4278
URL: http://www.pto.co.jp E-Mail: pto2@alpha-web.or.jp

TIA Information Corner

★とちぎインターナショナル

フェスティバル'96

外国人と県民が集う祭典「とちぎインターナショナルフェスティバル'96」が次のとおり開催される。▷日時=平成8年10月27日(日)10:00~15:00(雨天時は11月3日(日)に変更)▷場所=宇都宮市あけぼの公園▷内容=外国民芸・物産展示販売、世界の料理試食、世界民族芸能、無料国際電話、日本文化紹介他▷問い合わせ=TIA 028-621-0777

'96 TOCHIGI INTERNATIONAL FESTIVAL

The International Festival that both foreign and Japanese residents can enjoy together will be held at the Akebono Park.

Date: Sunday, October 27, 1996 (If it rains, it will be postponed to November 3) Time: 10:00 a.m.~3:00 p.m.

Place: Akebono Koen (Akebono Park=near the Utsunomiya-shi Bunka Kaikan)

Programs: Exhibits and sales of foreign folk crafts and products, taste of foreign dishes, foreign folk dances, free international phone calls, introduction of Japanese culture, etc.

* For more details, call T.I.A. at 028-621-0777

FESTIVAL INTERNACIONAL DE TOCHIGI'96

Data: 27 de Outubro de 1996 (domingo) Em caso de chuva: 3 de Novembro

Horário: 10:00~15:00 horas

Local: Parque Akebono de Utsunomiya

Programa: Exposição e venda de artesanatos e produtos estrangeiros; comidas típicas; apresentação folclórica de vários países, e da cultura japonesa, ligação internacional gratuita.

Informações: na T.I.A. 028-621-0777

FESTIVAL INTERNACIONAL DE TOCHIGI'96

Día: 27 de Octubre de 1996 (domingo) En caso de lluvia: 3 de Noviembre

Hora: AM 10:00~PM 3:00

Lugar: Parque Akebono de Utsunomiya

Programa: Exposición y venta de obra de arte popular y productos extranjeros, comidas y arte folklórico de varios países, presentación de cultura japonesa, teléfono internacional gratuito.

Infórmese en: la T.I.A. 028-621-0777

96年栃木国際節

日期: 平成8年10月27日(日)(雨天時活動延期至11月3日星期日)

時間: 10:00~15:00

地点: 宇都宮市明保野公園

内容: 展示外国民間工芸品と土産、品嘗世界美食、世界民族技藝、免費利用国際電話、紹介日本文化等等。

聯絡地址: 国際交流協会 電話:(028)621-0777

جشنواره بین المللی توچیگی ۱۹۹۶

تاریخ: ۲۷ اکتوبر ۱۹۹۶

در صورت بارانی ۳ نوامبر تاریخ ۴ نوامبر موقتاً مکث می شود.

محل: اتسونومیا باشی پارک آکیبونو

ساعت: از ساعت ۱۰:۰۰ تا ساعت ۱۵:۰۰

برنامه: نمایشگاه هنر کالا (الات اهلی و سنتی هنری)

آذوقه خواری های ملی و ملی عرضه می شوند.

موسیقی و رقص. همچو کرونو فرهنگ زرین.

انسانی که اطلاعات بیشتری لازم داشته باشد میتواند

از تلفن مخصوص شماره ۰۲۸-۶۲۱-۰۷۷۷ استفاده نماید.

★TIA無料弁護士相談開催

▷日時=平成8年11月12日(火)午前9時~午後4時▷場所=TIA研修室▷相談料=無料▷内容=外国人のための法律相談▷対応言語=日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ペルシャ語

T.I.A. Free Legal Consultation

Date&Time : 12 November, 1996 (Tuesday)
9:00 ~16:00

Location : T.I.A. meeting room (third floor office of the T.I.A.)

Consultation Fee : Free

Content : Leagal consultation for foreigners

Available Language : Japanese, English, Portuguese, Spanish, Chinese, Persian

CONSULTAS GRATUITAS COM ADVOGADOS

Data: 12/11/96 Horário: 9:00~16:00hs.

Local: Sala de Estudos da T.I.A.

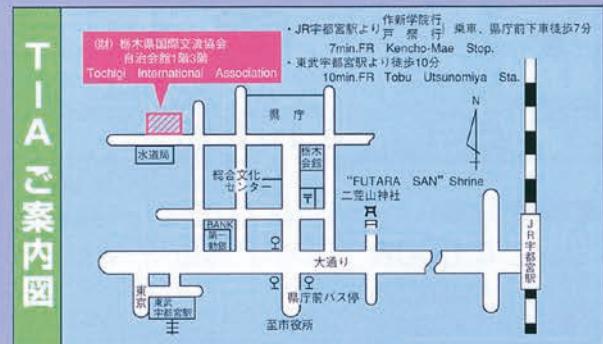
Conteúdo: Consultas sobre a legislação aos estrangeiros.

Idiomas: Japonês, Inglês, Português, Espanhol, Chinês e Pérsico.

TIA 賛助会員募集中!

賛助会員になりますと、TIAの機関紙、各種刊行物、催事情報等が受けられます。またテレビ方式変換ビデオ（海外→日本、日本→海外）をご利用できます。その他会員証の提示により、指定店での割引等の特典もあります。年会費は個人3,000円、団体10,000円、法人30,000円。

※賛助会費と出捐金の運用益は、TIAの様々な事業に使われており、地域の国際化のために役立っています。



編集・発行 財團法人栃木県国際交流協会

住所 〒320 宇都宮市昭和1-2-16栃木県自治会館1階

T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用電話)

F A X 028-621-0951

業務時間 8:30~17:15土曜・日曜・祝祭日・年末年始は休業